

履修科目一覧

動物飼育学科							
動物園飼育員専攻・水族館飼育員専攻・牧場スタッフ専攻							
1 年				2 年			
科目	前期	後期	貢	科目	前期	後期	貢
動物飼育学	○	○	71	動物感染症学	○		88
海洋生物学	○	○	72	動物基礎栄養学	○		89
家畜飼育学	○	○	73	小動物飼育概論	○	○	90
愛玩動物飼養管理学士学	○	○	74	飼育健康管理学	○	○	91
動物自然環境学	○	○	75	動物健康管理学	○	○	92
エキゾチックアニマル学	○		76	植物療法	○		93
動物解剖生理学	○	○	77	自然環境保護	○		94
動物行動学		○	78	アクアリウム演習		○	95
公衆衛生・関連法規	○	○	79	環境教育学		○	96
校外飼育実習 I	○	○	80	動物園学※1	○	○	97
動物飼育実習 I	○	○	81	水族館学※2	○	○	98
飼育総合演習 I	○	○	82	畜産学※3	○	○	99
動物総合実習 I	○	○	83	校外飼育実習 II	○	○	100
検定対策	○	○	84	動物飼育実習 II	○	○	101
ビジネスマナー	○	○	85	飼育総合演習 II	○	○	102
パソコン実習	○		86	動物総合実習 II	○	○	103
就職実務 I	○	○	87	検定対策		○	104
				就職実務 II	○	○	105
				SNSリテラシー		○	106
				スポーツトレーニング実践	○	○	107

※1 動物園飼育員専攻のみ

※2 水族館飼育員専攻のみ

※3 牧場スタッフ専攻のみ

科目名	動物飼育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入 ○
担当教員	連携先企業	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	展示の目的や動物種ごとの様々な展示方法を学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、野生動物の生態や病気などについても学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種・目的ごとに異なる展示方法を学び、動物飼育管理士試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック動物園編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	展示①	総論、展示計画と実施、目的別展示、展示技法、哺乳類の展示、鳥類の展示、両生・爬虫類の展示
第3回目～第4回目	展示②	昆虫類の展示、非生体資料の展示、展示と解説
第5回目～第6回目	生態①	適切な飼育環境の実現、動物生態の理解
第7回目～第8回目	生態②	進化に基づく諸現象の理解
第9回目～第10回目	教育①	総論、教育内容(自然・環境・情操・生体)、教育対象、ガイド活動、学習会
第11回目～第12回目	教育②	こども動物園、自然観察会、出張授業、移動動物園、教材貸し出し、動物相談、実習
第13回目～第14回目	病気①	総論、病気の予防、寄生虫症、人と動物の共通感染症
第15回目～第16回目	病気②	麻酔・吸入麻酔、哺乳類の病気、鳥類の病気、爬虫類の病気、両生類の病気
第17回目～第18回目	繁殖①	総論、サル類の繁殖、肉食獣の繁殖、草食獣の繁殖、有袋類の繁殖
第19回目～第20回目	繁殖②	鳥類の繁殖、爬虫類の繁殖、両生類の繁殖、昆虫の繁殖
第21回目～第22回目	輸送①	総論、鳥類・爬虫類・両生類の捕獲・保定、哺乳類の捕獲・保定
第23回目～第24回目	輸送②	輸送、両生類の繁殖、昆虫の繁殖
第25回目～第26回目	環境エンリッチメント ①	総論、展示とエンリッチメント、留意点、実施と評価
第27回目～第28回目	環境エンリッチメント ②	鳥類、有袋類、小型食肉目、大型食肉目、霊長類、有蹄類、齧歯類、その他の小型哺乳類
第29回目～第30回目	総括	まとめ

科目名	海洋生物学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	海洋生物ついて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	様々な海洋生物の特性と人との関わりを理解し、海洋生物学の知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック水族館編(配布資料)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	分類①	分類と分類学
第3回目～第4回目	分類②	魚類、軟体動物・甲殻類の分類
第5回目～第6回目	分類③	両生類、爬虫類の分類
第7回目～第8回目	分類④	哺乳類、鳥類の分類
第9回目～第10回目	生態①	魚類の生理、生態、繁殖
第11回目～第12回目	生態②	魚類の生理、生態、繁殖
第13回目～第14回目	生態③	両生類・爬虫類の生理、生態、繁殖
第15回目～第16回目	生態④	海生鳥類の生理、生態、繁殖
第17回目～第18回目	生態⑤	海生哺乳類の生理、生態、繁殖
第19回目～第20回目	生態⑥	海生哺乳類の生理、生態、繁殖
第21回目～第22回目	病気①	魚類・両生類・爬虫類の病気
第23回目～第24回目	病気②	哺乳類・鳥類の病気、飼育下での留意点
第25回目～第26回目	総括①	まとめ
第27回目～第28回目	総括②	まとめ
第29回目～第30回目	総括③	まとめ

科目名	家畜飼育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	産業動物の種類、品種、飼育管理法および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	様々な動物の特性と人との関わりを理解し、産業について学ぶ。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本の家畜・家禽(Gakken)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	牛①	歴史、特性、品種、解剖・生理
第3回目～第4回目	牛②	飼養管理、牛に多い疾病
第5回目～第6回目	馬①	馬の用途、解剖・生理
第7回目～第8回目	馬②	馬に多い疾病
第9回目～第10回目	豚①	歴史、特性、品種、解剖・生理
第11回目～第12回目	豚②	飼養管理、豚に多い疾病
第13回目～第14回目	羊①	歴史、特性、品種、解剖・生理
第15回目～第16回目	羊②	飼養管理、羊に多い疾病
第17回目～第18回目	山羊①	歴史、特性、品種、解剖・生理
第19回目～第20回目	山羊②	飼養管理、山羊に多い疾病
第21回目～第22回目	鶏①	歴史、特性、品種、解剖・生理
第23回目～第24回目	鶏②	飼養管理、鶏に多い疾病
第25回目～第26回目	畜産業	畜産業とは、日本の畜産、畜産業の地域による特徴、生産費の構成割合
第27回目～第28回目	産業動物の福祉	産業動物福祉改善の歴史と定義、動物福祉の課題
第29回目～第30回目	まとめ	総まとめ

科目名	愛玩動物飼養管理士学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	ペット(愛玩動物)の習性や正しい飼い方、動物関連法規(動物愛護管理法・ペットフード安全法など)、動物愛護精神などを、多くの人に広められる能力を身に付ける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。また、愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物飼養管理士2級 第1巻・第2巻		
成績評価の方法・基準	検定合否・学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉演習になるが、テーマによっては講義も入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	愛玩動物飼養管理士	協会の設立、愛玩動物飼養管理士とは
第3回目～第4回目	愛玩動物飼養管理士	ボランティア活動の捉え方
第5回目～第6回目	人と動物の関係学	人と動物のかかわり、多様な動物愛護思想とその歴史
第7回目～第8回目	人と動物の関係学	利用目的により異なるかかわり方
第9回目～第10回目	動物関係法令	法令とは、動物の愛護及び管理に関する法律
第11回目～第12回目	動物関係法令	飼育動物・野生動物関連法令
第13回目～第14回目	ペット業界の現状と広がり	ペット業界の歴史
第15回目～第16回目	ペット業界の現状と広がり	ペット業界の現状
第17回目～第18回目	動物の体の仕組みと働き	体の基本の仕組み
第19回目～第20回目	動物の体の仕組みと働き	体内の情報伝達
第21回目～第22回目	動物の飼養管理	動物の適正な飼養・管理
第23回目～第24回目	動物の飼養管理	高齢動物の取り扱い
第25回目～第26回目	動物のしつけ	学習理論
第27回目～第28回目	総まとめ	総合演習
第29回目～第30回目	総まとめ	総合演習

科目名	動物自然環境学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	野生動物や自然環境、生態系について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	生物の進化や自然環境について学ぶ。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	動物自然環境学①	自然の成り立ち
第3回目～第4回目	動物自然環境学②	世界の気候と植生
第5回目～第6回目	動物自然環境学③	生物地理学①
第7回目～第8回目	動物自然環境学④	生物地理学②
第9回目～第10回目	生物進化と種分化	進化とは
第11回目～第12回目	生物の生活資源	生物の環境
第13回目～第14回目	生物間相互作用	種間の様々な関係
第15回目～第16回目	生態系	生態系の概念
第17回目～第18回目	競争と共存	種間競争と種内競争・生態的地位など
第19回目～第20回目	生活史の進化と多様性	生活史の進化
第21回目～第22回目	ヒトと自然環境①	生態系サービス
第23回目～第24回目	ヒトと自然環境②	環境保全
第25回目～第26回目	総括①	まとめ
第27回目～第28回目	総括②	まとめ
第29回目～第30回目	総括③	まとめ

科目名	エキゾチックアニマル学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	石樽 有実子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	エキゾチックアニマルの種類や飼養方法、病気などについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	エキゾチックアニマルを適正に扱うことができる知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ハムスター①	生物観と飼育難易度、生物学的特徴、生物学的分類
第2回目	ハムスター②	品種とその特徴、身体検査、飼育方法・環境、消火に関する仕組み
第3回目	ウサギ①	雌雄判別、繁殖・妊娠、看護、疾患・治療
第4回目	ウサギ②	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第5回目	フェレット①	生物学的分類、身体検査、飼育環境
第6回目	フェレット②	繁殖、看護、疾患
第7回目	チンチラ①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第8回目	チンチラ②	生物学的分類、繁殖、看護、疾患
第9回目	モルモット	生物観と飼育難易度、分類、繁殖、看護、疾患
第10回目	カピバラ	生物観と飼育難易度、分類、繁殖、看護、疾患
第11回目	ハリネズミ	生物観と飼育難易度、分類、繁殖、看護、疾患
第12回目	鳥類①	インコ・文鳥等の飼育方法、繁殖、看護、疾患
第13回目	鳥類②	フクロウ等の飼育方法、繁殖、看護、疾患
第14回目	爬虫類・両生類①	爬虫類両生類の飼育方法、繁殖、看護、疾患
第15回目	爬虫類・両生類②	爬虫類両生類の飼育方法、繁殖、看護、疾患

科目名	動物解剖生理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	石樽 有実子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物の細胞、組織。臓器レベルの各段階で理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の体の構造と機能を理解し、愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	伴侶動物解剖生理学		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	体の基本構造	細胞のしくみと働き、遺伝情報、組織、器官
第3回目～第4回目	筋骨格系	体の位置・方向を示す用語、表面解剖学的区分、骨格、骨格筋
第5回目～第6回目	消化器系	口腔内、咽頭と嚥下、食道、胃・腸のしくみと働き、唾液腺、膵臓、肝臓
第7回目～第8回目	循環器系	心臓のしくみ、心筋の性質、心臓機能の調節、血管のしくみと働き、血液循環の調節
第9回目～第10回目	呼吸器系	呼吸器の構造、呼吸
第11回目～第12回目	泌尿器系	腎臓、尿路、体液、電解質バランス、酸・塩基平衡
第13回目～第14回目	生殖器系	脳神経、脊髄と脊髄神経、自律神経系、行動の神経調節
第15回目～第16回目	内分泌系	内分泌とは、ホルモンの種類、内分泌系の構造と機能
第17回目～第18回目	神経系	脳と神経系の役割、静止膜電位と活動電位、興奮の伝導とシナプス伝達、シナプスの種類、神経伝達物質と受容体
第19回目～第20回目	感覚器系	感覚系とは、受容器と閾値、体性感覚、嗅覚、味覚、聴覚と平衡感覚、視覚
第21回目～第22回目	外皮系	外皮、皮膚の付属器官、皮膚による体温調節、
第23回目～第24回目	血液	血球と血漿成分、赤血球・白血球の構造と機能、血液凝固
第25回目～第26回目	免疫系	生体を守る防御機構、自然免疫、獲得免疫
第27回目～第28回目	代謝	基礎代謝、栄養素の代謝、必要な栄養素
第29回目～第30回目	まとめ	生殖とその分類、生殖器の基本的なしくみ、発情徴候と発情周期、遺伝と器官発生

科目名	動物行動学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	動物の基礎的な行動学を学び、動物園でのトレーニング方法も学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物園でのトレーニング方法を理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	飼育ハンドブック、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	実際にトレーニングを行えるわけではないので、動画などを使用し理解しやすいように心掛ける。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	基本概念	行動学の発展と研究、行動の進化と適応
第3回目～第4回目	維持行動	維持行動の意味と効果
第5回目～第6回目	社会科①	群れの社会行動、生殖行動
第7回目～第8回目	社会科②	コミュニケーション行動、敵対行動・親和的行動
第9回目～第10回目	行動の発現	動機付けと行動の制御
第11回目～第12回目	行動の発達と学習①	行動の発達、遺伝的要因・環境要因
第13回目～第14回目	行動の発達と学習②	馴化と感作、古典的条件付け・オペラント条件付け
第15回目～第16回目	トレーニング①	動物園でのトレーニング
第17回目～第18回目	トレーニング②	ゾウ
第19回目～第20回目	トレーニング③	ゾウの準間接飼育におけるトレーニング
第21回目～第22回目	トレーニング④	トリ
第23回目～第24回目	トレーニング⑤	オランウータン
第25回目～第26回目	トレーニング⑥	ゴリラ
第27回目～第28回目	行動分析	行動分析とハズバンドダリートレーニング
第29回目～第30回目	まとめ	まとめ

科目名	公衆衛生・関連法規		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	公衆衛生・動物関連法規について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	公衆衛生・動物関連法規について学び、動物園や水族館飼育に活かす。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	応用動物看護学5(エデュワードプレス) 他		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の目的について理解する
第3回目～第4回目	公衆衛生の概要②	公衆衛生行政について理解する
第5回目～第6回目	公衆衛生の概要③	国民衛生の動向について理解する
第7回目～第8回目	公衆衛生の概要④	獣医療の関係について理解する
第9回目～第10回目	公衆衛生の概要⑤	感染の成立について理解する
第11回目～第12回目	疫学と疾病予防②	疫学調査法について理解する
第13回目～第14回目	疫学と疾病予防③	予防疫学について理解する
第15回目～第16回目	疫学と疾病予防④	人獣共通感染症とその対策について理解する
第17回目～第18回目	疫学と疾病予防⑤	狂犬病予防について理解する
第19回目～第20回目	環境衛生①	環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する
第21回目～第22回目	環境衛生②	化学物質によってもたらされる健康障害について理解する
第23回目～第24回目	法の基礎知識	法学総論・動物関連法規について理解する。
第25回目～第26回目	動物愛護法規	動物愛護および管理に関する法律について理解する。
第27回目～第28回目	野生動物について①	野生動物等に関する法律及び条例について理解する。
第29回目～第30回目	野生動物について②	野生動物等に関する法律及び条例について理解する。

科目名	校外飼育実習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 ○
担当教員	連携先企業	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	群馬サファリパークおよび乗馬クラブ高崎にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種ごとの適切な扱いや飼養方法を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	群馬サファリパーク・乗馬クラブ高崎		
成績評価の方法・基準	連携先企業の実習評価により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	群馬サファリパーク①	実習にあたっての説明
第5回目～第8回目	群馬サファリパーク②	動物の正しい扱い方、掃除道具の扱い方
第9回目～第12回目	群馬サファリパーク③	パーク内動物の飼養管理①
第13回目～第16回目	群馬サファリパーク④	パーク内動物の飼養管理②
第17回目～第20回目	群馬サファリパーク⑤	パーク内動物の飼養管理③
第21回目～第24回目	群馬サファリパーク⑥	パーク内動物の飼養管理④、飼育員講義
第25回目～第28回目	群馬サファリパーク⑦	パーク内動物の飼養管理⑤、営業部体験
第29回目～第32回目	群馬サファリパーク⑧	パーク内動物の飼養管理⑥、まとめ
第33回目～第36回目	乗馬クラブ高崎①	馬の基礎知識、フォークの扱い方
第37回目～第40回目	乗馬クラブ高崎②	馬の扱い方、手入れ
第41回目～第44回目	乗馬クラブ高崎③	作業スピード強化
第45回目～第48回目	乗馬クラブ高崎④	引馬
第49回目～第52回目	乗馬クラブ高崎⑤	乗馬①
第53回目～第56回目	乗馬クラブ高崎⑥	乗馬②
第57回目～第60回目	乗馬クラブ高崎⑦	引馬

科目名	動物飼育実習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	飼育管理①	学校飼育の心構え
第3回目～第4回目	飼育管理②	飼育動物ポップ作り
第5回目～第6回目	飼育管理③	飼育動物ポップ作り
第7回目～第8回目	飼育実習①	飼育管理方法
第9回目～第10回目	飼育実習②	トラブルの対処法や予防策
第11回目～第12回目	飼育実習③	トラブルの対処法や予防策
第13回目～第14回目	飼育実習④	おもちゃ作り
第15回目～第16回目	飼育実習⑤	おもちゃ作り
第17回目～第18回目	飼育実習⑥	おもちゃ作り
第19回目～第20回目	飼育実習⑦	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第21回目～第22回目	飼育実習⑧	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第23回目～第24回目	飼育実習⑨	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第25回目～第26回目	飼育実習⑩	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第27回目～第28回目	飼育実習⑪	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第29回目～第30回目	飼育実習⑫	お互いの動きを把握し、効率よく実践する

科目名	飼育総合演習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	240時間	単位数	8
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	飼育管理室、木工室にて、動物業界で求められる基礎技術から応用までを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物業界で求められる専門的な知識、能力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	連携先企業の実習評価により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	基礎①	校外飼育実習で必要となる掃除スキルを学ぶ
第5回目～第8回目	基礎②	実習日誌の書き方/掃除実践編
第9回目～第12回目	調査①	動物説明パネルを作る
第13回目～第16回目	調査②	動物説明パネルを作る
第17回目～第20回目	調査③	全国動物園水族館調査
第21回目～第24回目	木工基礎①	エンリッチメントを意識した展示場作り
第25回目～第28回目	木工基礎②	エンリッチメントを意識した展示場作り
第29回目～第32回目	校外実習まとめ①	チームにわかれて実習内容をまとめる
第33回目～第36回目	校外実習まとめ②	まとめたものを発表する
第37回目～第40回目	スライド作成	インターンシップの内容をスライドにまとめる
第41回目～第44回目	スライド作成	インターンシップの内容をスライドにまとめる
第45回目～第48回目	発表	まとめたものを発表する
第49回目～第52回目	ロープワーク	ロープワークを学ぶ
第53回目～第56回目	模擬卵作成	模擬卵を作成する
第57回目～第60回目	まとめ	1年間のまとめ

科目名	動物総合実習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	180時間	単位数	6単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物飼育員として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物企業において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物企業)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	14日間で90時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

2. 実習(実務型実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・清掃
- ・給餌
- ・生体管理

3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状

科目名	検定対策		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践をみにつける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	生物分類技能検定1	分類、形態、生態に関する問題(哺乳類)
第3回目～第4回目	生物分類技能検定2	生物の一般問題(学名)
第5回目～第6回目	生物分類技能検定3	分類、形態、生態に関する問題(鳥類)
第7回目～第8回目	生物分類技能検定4	生物の一般問題(和名)
第9回目～第10回目	生物分類技能検定5	分類、形態、生態に関する問題(爬虫類)
第11回目～第12回目	生物分類技能検定6	生物の一般問題(標本)
第13回目～第14回目	生物分類技能検定7	分類、形態、生態に関する問題(昆虫)
第15回目～第16回目	潜水土1	2019過去問、解説
第17回目～第18回目	潜水土2	2018過去問、解説
第19回目～第20回目	潜水土3	2017過去問、解説
第21回目～第22回目	潜水土4	2016過去問、解説
第23回目～第24回目	潜水土5	2015過去問、解説
第25回目～第26回目	潜水土6	2014過去問、解説
第27回目～第28回目	潜水土7	2013過去問、解説
第29回目～第30回目	潜水土8	2012過去問、解説

科目名	ビジネスマナー		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	「電話対応」、「コミュニケーション」、「ビジネスマナー」を中心に社会で働くために求められる能力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	社会人としての一般常識の理解を深める。また、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	電話対応技能検定 クイックマスター電話対応(日本電信電話ユーザー協会)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率・期末テストの評価を考慮し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	電話対応①	電話対応の基本
第3回目～第4回目	電話対応②	電話の言葉
第5回目～第6回目	コミュニケーション	ツールの基本
第7回目～第8回目	マナー①	マナー基本、身だしなみ
第9回目～第10回目	マナー②	命令・指示・報告、職場のマナー
第11回目～第12回目	マナー③	ビジネスマナー、名刺交換
第13回目～第14回目	マナー④	和食・洋食マナー
第15回目～第16回目	検定対策①	過去問題演習
第17回目～第18回目	検定対策②	過去問題演習
第19回目～第20回目	社会人常識①	政治や経済に関連する基礎用語
第21回目～第22回目	社会人常識②	漢字の読み・書き
第23回目～第24回目	社会人常識③	カタカナ用語
第25回目～第26回目	社会人常識④	ビジネスにおける計算力
第27回目～第28回目	社会人常識⑤	過去問題演習
第29回目～第30回目	社会人常識⑥	過去問題演習

科目名	パソコン実習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	社会人としての必須能力であるパソコンの基本操作を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	文書作成・表計算・プレゼンテーション等の作成作業がスムーズにできるレベルを目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	chromebook		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	パソコン基礎①	PCのシャットダウン、タイピング、データ保存
第2回目	パソコン基礎②	タイピング、文書の作成
第3回目	パソコン基礎③	タイピング、メールの送受信
第4回目	文書作成ソフト①	チラシ作成①
第5回目	文書作成ソフト②	チラシ作成②
第6回目	文書作成ソフト③	チラシ作成③
第7回目	表計算ソフト①	連続データ、合計、平均
第8回目	表計算ソフト②	グラフ作成①
第9回目	表計算ソフト③	グラフ作成②
第10回目	文書作成応用①	報告書作成①
第11回目	文書作成応用②	報告書作成②
第12回目	プレゼンテーションソフト①	プレゼン資料の作成①
第13回目	プレゼンテーションソフト②	プレゼン資料の作成②
第14回目	プレゼンテーションソフト③	プレゼン資料の作成③
第15回目	まとめ	発表

科目名	就職実務 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	心構え	就職活動における心構えを理解する
第3回目～第4回目	履歴書準備①	履歴書に記載する内容の整理
第5回目～第6回目	履歴書準備②	履歴書に記載する内容の整理
第7回目～第8回目	履歴書準備③	履歴書に記載する内容の整理
第9回目～第10回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第11回目～第12回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第13回目～第14回目	履歴書作成①	履歴書を書く
第15回目～第16回目	履歴書作成②	履歴書を書く
第17回目～第18回目	身だしなみ①	就職活動における身だしなみを理解する
第19回目～第20回目	身だしなみ②	就職活動における身だしなみを理解する
第21回目～第22回目	自己啓発①	自分に自信を持つための自己啓発学習
第23回目～第24回目	自己啓発②	自分に自信を持つための自己啓発学習
第25回目～第26回目	自己啓発③	自分に自信を持つための自己啓発学習
第27回目～第28回目	求人票の見方	求人票の見方を理解する
第29回目～第30回目	社会保障①	社会保障制度について理解する
第31回目～第32回目	社会保障②	社会保障制度について理解する
第33回目～第34回目	働くこととは①	労働基準法について理解する
第35回目～第36回目	働くこととは②	仕事での課題解決方法を理解する
第37回目～第38回目	企業訪問①	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第39回目～第40回目	企業訪問②	企業訪問時のマナーや注意点について理解する

科目名	動物感染症学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学び、動物飼育管理士の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	序論・ウイルス学総論・細菌学総論	感染症等の歴史、ウイルス・細菌の分類・大きさや構造・増殖・伝搬等
第2回目	真菌学総論・プリオン総論	真菌の分類・大きさや構造・増殖・伝搬等、異常プリオン
第3回目	感染防御	ワクチン、抗ウイルス薬と抗菌薬、動物感染症対策
第4回目	感染症学各論①	犬猫の感染症(ウイルス)
第5回目	感染症学各論②	犬猫の感染症(ウイルス)
第6回目	感染症学各論③	犬猫の感染症(細菌・真菌)
第7回目	感染症学各論④	産業動物の感染症(ウイルス)
第8回目	感染症学各論⑤	産業動物の感染症(細菌・真菌・プリオン)
第9回目	感染症学各論⑥	実験動物・エキゾチックアニマルの感染症(ウイルス・細菌・真菌)
第10回目	寄生虫学総論①	歴史、寄生虫・宿主との相互関係、生活環と生殖法、感染経路等
第11回目	寄生虫学総論① 原虫類	人獣共通感染症、寄生虫症の治療と看護・ケアおよび予防対策等
第12回目	蠕虫類①	蠕虫類総論・線虫類
第13回目	蠕虫類②	線虫類・吸虫類
第14回目	蠕虫類③・衛生動物①	条虫類・衛生動物総論
第15回目	衛生動物②	ダニ類、ノミ類、シラミ・ハジラミ類等

科目名	動物基礎栄養学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、動物園での飼料について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を理解し、動物園にいる動物たちの飼料選択、種類ごとの給餌方法を現場で安全に実践できるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック 動物園編1		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	現場によって様々な給餌方法や、飼料の種類があることも伝える必要がある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎栄養学	五大栄養素、六大栄養学について
第2回目	飼料	飼料管理、栄養管理、栄養がもたらす障害、評価方法
第3回目	犬の飼料	犬の飼料
第4回目	猫の飼料	猫の飼料
第5回目	サル類の飼料	サル類の飼料、注意点、栄養疾患
第6回目	肉食獣の飼料①	肉食獣の飼料、生き餌、栄養要求
第7回目	肉食獣の飼料②	栄養疾患、障害
第8回目	草食獣の飼料①	草食獣の消化器官の特徴、種類
第9回目	草食獣の飼料②	飼料の配合
第10回目	雑食獣の飼料①	雑食獣の食性、飼料、栄養管理、栄養疾患
第11回目	雑食獣の飼料②	栄養管理、栄養疾患
第12回目	鳥類の飼料	鳥類の給餌上の留意点
第13回目	爬虫類の飼料	カメ、ワニ、トカゲ、ヘビの飼料
第14回目	両生類の飼料	両生類の飼料の種類と入手方法、給餌方法
第15回目	昆虫の飼料	昆虫の食性、飼料、飼育の実際

科目名	小動物飼育概論		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	小動物の種類や飼養方法、病気などについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	小動物を適正に扱うことができる知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版、愛玩動物看護師カリキュ		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ウサギ	ウサギの特徴、分類、品種、飼育、飼育環境、雌雄判別、身体検査、繁殖、疾患
第2回目	フェレット	フェレットの特徴、分類、品種、飼育、身体検査、看護、疾患
第3回目	チンチラ	チンチラの特徴、品種、分類、身体検査、飼育、飼育環境、繁殖、疾患
第4回目	モルモット	モルモットの特徴、分類、品種、身体検査、飼育、飼育環境、繁殖、疾患
第5回目	ハムスター	ハムスターの分類、種類、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第6回目	デグー、シマリス	デグー、シマリスの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾病
第7回目	プレーリードッグ、ジリス	プレーリードッグとジリスの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第8回目	ハリネズミ	ハリネズミの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第9回目	フクロモモンガ	モモンガの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第10回目	トリ	トリの特徴、トリの種類、飼育方法、身体検査、雌雄判別、繁殖、疾患
第11回目	小型サル	小型サルの分類、種類、生態、特徴、飼育、身体検査、疾患
第12回目	ミニブタ	ミニブタの特徴、品種、飼育、飼育環境、身体検査、繁殖、疾患
第13回目	ボールパイソン	ボールパイソンの特徴、飼育、飼育環境、身体検査、雌雄判別、疾患
第14回目	グリーンイグアナ	グリーンイグアナの特徴、飼育、飼育環境、身体検査、雌雄判別、疾患、繁殖
第15回目	カメ	半水棲カメと陸生ガメの特徴、品種、飼育管理、飼育環境、疾患

科目名	飼育健康管理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	生態にあった飼育環境を学び、飼育管理を通して生体の健康と福祉について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種別での生態を把握し、正しく飼育出来るようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新飼育ハンドブック 動物園編		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	生体のより良い飼育環境と展示方法を動物の福祉に繋げる。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	適切な飼育環境の実現①	適切な飼育・展示、動物生態の理解
第3回目～第4回目	適切な飼育環境の実現②	動物生態の理解、動物の福祉
第5回目～第6回目	展示①	動物の構成からみた展示(展示技法、哺乳類・鳥類の展示)
第7回目～第8回目	環境エンリッチメント、繁殖①	環境総論、展示とエンリッチメント、留意点、繁殖
第9回目～第10回目	環境エンリッチメント②	鳥類の環境エンリッチメント、繁殖
第11回目～第12回目	環境エンリッチメント③	有袋類の環境エンリッチメント、繁殖
第13回目～第14回目	環境エンリッチメント③	小型肉食目の環境エンリッチメント
第15回目～第16回目	環境エンリッチメント④	大型食肉目の環境エンリッチメント、繁殖(肉食獣)
第17回目～第18回目	環境エンリッチメント④	霊長類の環境エンリッチメント、繁殖(サル)
第19回目～第20回目	環境エンリッチメント⑤	有蹄類の環境エンリッチメント、繁殖(草食獣)
第21回目～第22回目	環境エンリッチメント⑤	齧歯類、その他の小型哺乳類
第23回目～第24回目	展示②、その他の繁殖①	両生類・爬虫類の展示・繁殖
第25回目～第26回目	展示③、その他の繁殖②	爬虫類の展示・繁殖
第27回目～第28回目	展示④、その他の繁殖③	昆虫類の展示・繁殖、非生体資料の展示
第29回目～第30回目	展示と解説	解説の重要性、解説手法

科目名	動物健康管理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	飼育下でない自然な状態での動物の生態を知る		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種別での生態を把握し、正しく飼育出来るようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新飼育ハンドブック 動物園編 他		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	飼育されている状態と野生での状態の違いを知り、飼育に活かす		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	概論①	動物生態の理解
第3回目～第4回目	概論②	動物の福祉
第5回目～第6回目	生態①	哺乳類・鳥類の生育環境
第7回目～第8回目	生態②	環境総論、繁殖
第9回目～第10回目	生態③	鳥類の生態
第11回目～第12回目	生態④	有袋類の生態
第13回目～第14回目	生態⑤	小型肉食目の生態
第15回目～第16回目	生態⑥	大型食肉目の生態
第17回目～第18回目	生態⑦	霊長類の生態
第19回目～第20回目	生態⑧	有蹄類の生態
第21回目～第22回目	生態⑨	齧歯類、その他の小型哺乳類の生態
第23回目～第24回目	生態⑩	両生類・爬虫類の生態
第25回目～第26回目	生態⑪	爬虫類の生態
第27回目～第28回目	生態⑫	昆虫類の生態
第29回目～第30回目	まとめ	総括

科目名	植物療法		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	生物分類技能検定に向け対策をしつつ、植物の育成について詳しく学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	生物分類技能検定3級の合格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	生物分類技能検定試験問題集		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	試験対象の生物の範囲が広い為授業内であまり触れない動植物をメインで行っていく必要があるのに際して、他の科目とリンクしている生体に関しては教員同士で授業内容を共有しながら進めていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生物①	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生き物
第2回目	生物②	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生き物
第3回目	生物③	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生き物
第4回目	生物④	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生き物
第5回目	生物⑤	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生き物
第6回目	生物⑥	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生き物
第7回目	生物⑦	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生き物
第8回目	植物①	野菜、果物、その他の植物
第9回目	植物②	野菜、果物、その他の植物
第10回目	植物③	野菜、果物、その他の植物
第11回目	植物④	野菜、果物、その他の植物
第12回目	植物⑤	野菜、果物、その他の植物
第13回目	植物⑥	野菜、果物、その他の植物
第14回目	植物⑥	野菜、果物、その他の植物
第15回目	まとめ①	総まとめ

科目名	自然環境保護		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	自然環境について学び保護活動や現状を知る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	自然環境から生態系などを学び動物園や飼育に活かす。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料 等		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	自然環境学①	世界の現状の知る
第3回目～第4回目	自然環境学②	地形・天候・自然環境の歴史、成り立ち
第5回目～第6回目	自然環境学③	生態系、生物多様性
第7回目～第8回目	自然環境学④	植物、植生について知る
第9回目～第10回目	保全・保護①	深刻化する様々な環境問題
第11回目～第12回目	保全・保護②	自然環境に関わる法制度
第13回目～第14回目	保全・保護③	野生動植物に関わる法制度
第15回目～第16回目	保全・保護④	種の保存法、レッドデータブックについて
第17回目～第18回目	保全・保護⑤	保護活動や問題点、課題
第19回目～第20回目	ヒトと環境①	環境保全について考える
第21回目～第22回目	ヒトと環境②	ヒトと環境の相互作用の歴史
第23回目～第24回目	ヒトと環境③	SDG'sや今後の課題について考える
第25回目～第26回目	総括①	まとめ
第27回目～第28回目	総括①	まとめ
第29回目～第30回目	総括①	まとめ

科目名	アクアリウム演習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義、実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	魚の種類別飼育管理方法や、魚の病気、飼育用品について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種類別での飼育管理方法を理解し、適切な飼育方法を説明、実施できるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	飼育管理室の魚コーナー		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	生体の相性なども考え行動する、観察力。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	アクアリウム	アクアリウムとは
第2回目	種類	海水魚、淡水魚の違い
第3回目	飼育①	淡水魚の飼育方法
第4回目	飼育②	海水魚の飼育方法
第5回目	受け入れ①	水槽の立ち上げ方、準備
第6回目	受け入れ②	実践
第7回目	受け入れ③	実践②
第8回目	水草	水草の効果
第9回目	水草の水槽	水草の水槽づくり
第10回目	病気	魚の病気の対処
第12回目	混合①	魚の組み合わせ、相性
第13回目	混合②	混合水槽の計画
第11回目	水槽掃除	水槽掃除の仕方
第14回目	混合③	混合水槽の実践
第15回目	混合④	混合水槽の経過報告

科目名	環境教育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	情操教育を通して動物園の役割を再認識し、運営できる知識を身に付ける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	グループで計画したプチ動物園の流れを理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	実際に運営することになった際は、事故防止対策のこともしっかり考え対策する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	教育①	動物園で行う教育
第2回目	教育②	自然教育、環境教育、情操教育、生体を使った教育
第3回目	教育③	教育対象、ガイド活動、学習会
第4回目	教育④	子ども動物園
第5回目	計画①	子供動物園の計画
第6回目	計画②	子供動物園の計画
第7回目	準備①	準備
第8回目	準備②	準備
第9回目	準備③	準備
第10回目	準備④	準備
第11回目	準備⑤	準備
第12回目	準備⑥	準備
第13回目	実践①	実践
第14回目	実践②	実践
第15回目	実践③	実践

科目名	動物園学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	展示の目的や動物種ごとの分類、生理、生態などを学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、動物福祉に関する知識習得を図る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種・目的ごとに異なる知識を学び、水族業界で即戦力となる知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック動物園編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	概論①	動物園の機能・動物園水族館協会について
第5回目～第8回目	概論②	動物園に関する法令
第9回目～第12回目	展示①	展示計画と実施
第13回目～第16回目	展示②	展示技法
第17回目～第20回目	展示③	展示と解説
第21回目～第24回目	生理①	哺乳類・鳥類の生理
第25回目～第28回目	生理②	哺乳類・鳥類の生理
第29回目～第32回目	生理③	両生類・爬虫類の生理
第33回目～第36回目	生理④	両生類・爬虫類の生理
第37回目～第40回目	トレーニング①	動物園におけるトレーニング・ハズバンドリートレーニング
第41回目～第44回目	トレーニング②	動物園におけるトレーニング・ハズバンドリートレーニング
第45回目～第48回目	トレーニング③	動物園におけるトレーニング・ハズバンドリートレーニング
第49回目～第52回目	保存	総論・遺伝的管理
第53回目～第56回目	病気	共通感染症・動物対策
第57回目～第60回目	総括	まとめ

科目名	水族館学		
学科名	動物飼育学科		
分類	選択	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	水族館の機能、展示の目的を学ぶ。また、その展示技法やトレーニング、非生体資料の展示についても理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種・目的ごとに異なる知識を学び、水族業界で即戦力となれる知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック水族館編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	概論①	動物園・水族館とは
第3回目～第4回目	概論②	全国の水族館調査
第5回目～第6回目	展示①	総論、展示技法
第7回目～第8回目	展示②	海生哺乳類の展示
第9回目～第10回目	展示③	海生鳥類・爬虫類の展示
第11回目～第12回目	展示④	水族館デザイン論
第13回目～第14回目	トレーニング①	総論、基礎
第15回目～第16回目	トレーニング②	ハズバンダリートレーニングについて
第17回目～第18回目	トレーニング③	動物との関係
第19回目～第20回目	教育	水族館における教育
第21回目～第22回目	研究	水族館における研究
第23回目～第24回目	危機管理	総論、防災、事故について
第25回目～第26回目	総括①	まとめ
第27回目～第28回目	総括②	まとめ
第29回目～第30回目	総括③	まとめ

科目名	畜産学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	1年次での家畜飼育学を基礎に、復習をしつつ家畜飼育ではなく畜産業について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	畜産について正しく学び、畜産業の取り組みについても学ぶ。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	畜産の魅力を考えつつ授業に取り組む。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	畜産業	畜産の役割
第5回目～第8回目	飼料①	飼料の生産と利用
第9回目～第12回目	飼料②	飼料の生産と利用
第13回目～第16回目	家畜の生理・生態・飼育環境①	家畜の生理・生態
第17回目～第20回目	家畜の生理・生態・飼育環境②	家畜の繁殖
第21回目～第24回目	家畜飼育の実際①	養鶏
第25回目～第28回目	家畜飼育の実際②	養鶏
第29回目～第32回目	家畜飼育の実際③	養豚
第33回目～第36回目	家畜飼育の実際④	養豚
第37回目～第40回目	家畜飼育の実際⑤	酪農
第41回目～第44回目	家畜飼育の実際⑥	酪農
第45回目～第48回目	家畜飼育の実際⑦	ウマ、ヤギ、メンヨウなど
第49回目～第52回目	畜産経営と情報利用①	畜産における情報
第53回目～第56回目	畜産経営と情報利用②	生産管理での利用
第57回目～第60回目	まとめ	まとめ

科目名	校外飼育実習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 ○
担当教員	連携先企業	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	群馬サファリパークおよび乗馬クラブ高崎にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種ごとの適切な扱いや飼養方法を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	群馬サファリパーク・乗馬クラブ高崎		
成績評価の方法・基準	連携先企業の実習評価により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	群馬サファリパーク①	パーク内動物の飼養管理
第5回目～第8回目	群馬サファリパーク②	パーク内動物の飼養管理
第9回目～第12回目	群馬サファリパーク③	パーク内動物の飼養管理
第13回目～第16回目	群馬サファリパーク④	パーク内動物の飼養管理
第17回目～第20回目	群馬サファリパーク⑤	パーク内動物の飼養管理
第21回目～第24回目	群馬サファリパーク⑥	パーク内動物の飼養管理
第25回目～第28回目	群馬サファリパーク⑦	パーク内動物の飼養管理
第29回目～第32回目	群馬サファリパーク⑧	パーク内動物の飼養管理
第33回目～第36回目	乗馬クラブ高崎①	乗馬クラブ内での実習作業
第37回目～第40回目	乗馬クラブ高崎②	乗馬クラブ内での実習作業
第41回目～第44回目	乗馬クラブ高崎③	乗馬クラブ内での実習作業
第45回目～第48回目	乗馬クラブ高崎④	乗馬クラブ内での実習作業
第49回目～第52回目	乗馬クラブ高崎⑤	乗馬クラブ内での実習作業
第53回目～第56回目	乗馬クラブ高崎⑥	乗馬クラブ内での実習作業
第57回目～第60回目	乗馬クラブ高崎⑦	乗馬クラブ内での実習作業

科目名	動物飼育実習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果または実技により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	飼育管理①	飼育管理について
第3回目～第4回目	飼育管理②	飼育管理室について
第5回目～第6回目	飼育管理③	飼育管理方法について
第7回目～第8回目	飼育管理④	飼育で気になったこと
第9回目～第10回目	飼育管理⑤	飼育で気になったこと
第11回目～第12回目	飼育管理⑥	飼育で気になったこと
第13回目～第14回目	飼育管理⑦	改善後の経過報告
第15回目～第16回目	飼育管理⑧	改善後の経過報告
第17回目～第18回目	飼育管理⑨	飼育の効率化
第19回目～第20回目	飼育管理⑩	飼育の効率化
第21回目～第22回目	飼育管理⑪	飼育の効率化
第23回目～第24回目	飼育管理⑫	飼育の効率化
第25回目～第26回目	飼育管理⑬	飼育の効率化
第27回目～第28回目	飼育管理⑭	飼育の効率化
第29回目～第30回目	飼育管理⑮	飼育の効率化

科目名	飼育総合演習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	対象の生態を学び、展示方法・説明パネルやエンリッチメントを考慮した飼育物の作成。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物業界で求められる専門的な知識、能力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び提出物の作品で考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	実習に適した動きやすい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	展示パネル作成①	動物の説明パネルの作成、生態説明
第2回目	展示パネル作成②	動物の説明パネルの作成、生態説明
第3回目	動物業界調査	全国の動物園・水族館の施設調査
第4回目	飼育室作成①	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第5回目	飼育室作成②	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第6回目	飼育室作成③	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第7回目	飼育室作成④	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第8回目	飼育室作成⑤	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第9回目	ロープワーク①	動物業界で求められるロープ技術の習得
第10回目	ロープワーク②	動物業界で求められるロープ技術の習得
第11回目	模擬卵作り①	鶏の卵を使用した卵の標本作成
第12回目	模擬卵作り②	鶏の卵を使用した卵の標本作成
第13回目	パンフレット作り①	パソコンを使用した動物パンフレットの作成
第14回目	パンフレット作り②	パソコンを使用した動物パンフレットの作成
第15回目	まとめ	過去の制作物の発表、まとめ

科目名	動物総合実習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物飼育員として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物企業において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物企業)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	14日間で80時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

2. 実習(実務型実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・清掃
- ・給餌
- ・生体管理

3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状

科目名	検定対策		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 さき	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	サロントリマー検定3級、愛玩動物飼養管理士1級などの検定合格を目指し、課題問題を中心に理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物飼養管理士テキスト、配布資料		
成績評価の方法・基準	検定合否・学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉演習になるが、テーマによっては講義も入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	愛玩動物飼養管理士①	課題問題1～10
第3回目～第4回目	愛玩動物飼養管理士②	課題問題11～20
第5回目～第6回目	愛玩動物飼養管理士③	課題問題21～30
第7回目～第8回目	愛玩動物飼養管理士④	課題問題31～40
第9回目～第10回目	愛玩動物飼養管理士⑤	課題問題41～50
第11回目～第12回目	愛玩動物飼養管理士⑥	課題問題51～60
第13回目～第14回目	愛玩動物飼養管理士⑦	課題問題61～70
第15回目～第16回目	愛玩動物飼養管理士⑧	課題問題71～80
第17回目～第18回目	愛玩動物飼養管理士⑨	課題問題81～90
第19回目～第20回目	愛玩動物飼養管理士⑩	課題問題91～111
第21回目～第22回目	愛玩動物飼養管理士⑪	課題問題112～134
第23回目～第24回目	サロントリマー①	グルーミング用語
第25回目～第26回目	サロントリマー②	骨格・犬体用語
第27回目～第28回目	サロントリマー③	各部の名称
第29回目～第30回目	サロントリマー④	犬種の特長

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	面接対策や企業選択の方法などを学び、就職活動をより意識して対策を実施する		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適切な企業選択と社会人としてのマナーを身につけて就職活動に備える		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	面接対策①	面接時の注意点、面接指導
第3回目～第4回目	面接対策②	面接時の注意点、面接指導
第5回目～第6回目	電話対策①	電話のかけ方、話し方
第7回目～第8回目	電話対策②	電話のかけ方、話し方
第9回目～第10回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第11回目～第12回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第13回目～第14回目	傾聴術	傾聴について理解
第15回目～第16回目	傾聴術②	傾聴実践
第17回目～第18回目	話し方①	発声練習
第19回目～第20回目	話し方②	話題の作り方
第21回目～第22回目	心理学①	人の心のつかみ方
第23回目～第24回目	心理学②	好かれる人になるには
第25回目～第26回目	心理学③	深層心理
第27回目～第28回目	企業の選び方	企業の選定方法、企業研究について
第29回目～第30回目	企業研究	就職を視野に入れている企業について調べる

科目名	SNSリテラシー		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	ネット社会においてSNSでのトラブル事例や、個人情報の取り扱いの重要性を学び今後にかけるようにする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ネットでのトラブル事例をもとに、ネット上での危機管理能力を上げる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は、不可とする。		
履修に当たっての留意点	ネットの流行は移り変わりが早いため、その時代に流行っているものや、トラブル事例を取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	ネット社会	ネット社会のメリット、デメリット
第2回目～第4回目	個人情報	個人情報の取り扱い方
第5回目～第6回目	SNSとは	SNSの正しい使い方
第7回目～第8回目	ネットのトラブル①	ケーススタディー
第9回目～第10回目	ネットのトラブル②	ケーススタディー
第11回目～第12回目	ネットのトラブル③	ケーススタディー
第13回目～第14回目	ネットのトラブル④	ケーススタディー
第15回目～第16回目	ネットのトラブル⑤	ケーススタディー
第17回目～第18回目	ネットのトラブル⑥	ケーススタディー
第19回目～第20回目	ネットのトラブル⑦	ケーススタディー
第21回目～第22回目	ネットのトラブル⑧	ケーススタディー
第23回目～第24回目	ネットのトラブル⑨	ケーススタディー
第25回目～第26回目	ネットのトラブル⑩	ケーススタディー
第27回目～第28回目	ネットのトラブル⑪	ケーススタディー
第29回目～第30回目	まとめ	総まとめ

科目名	スポーツトレーニング実践		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	腹筋、背筋などの筋カトレーニングから、ランなどの有酸素運動で持久力を上げる。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	大型動物を扱うための筋力・体力の向上。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末テスト(実技)の評価により判定する。		
履修に当たっての留意点	個人個人の体力差を考慮し実習に取り組む。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	体力・筋力向上①	実習
第3回目～第4回目	体力・筋力向上②	実習
第5回目～第6回目	体力・筋力向上③	実習
第7回目～第8回目	体力・筋力向上④	実習
第9回目～第10回目	体力・筋力向上⑤	実習
第11回目～第12回目	体力・筋力向上⑥	実習
第13回目～第14回目	体力・筋力向上⑦	実習
第15回目～第16回目	体力・筋力向上⑧	実習
第17回目～第18回目	体力・筋力向上⑨	実習
第19回目～第20回目	体力・筋力向上⑩	実習
第21回目～第22回目	体力・筋力向上⑪	実習
第23回目～第24回目	体力・筋力向上⑫	実習
第25回目～第26回目	体力・筋力向上⑬	実習
第27回目～第28回目	体力・筋力向上⑭	実習
第29回目～第30回目	体力・筋力向上⑮	実習